

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,32 2019年 秋号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い③①鳥の名前がつく場所でバードウォッチングをやってみた
蜂蜜の森から①①「農薬被害」

「ハシグロビタキ」酒田市にて撮影：佐々木真一



Bird-watching

バードウォッチングへの誘い 31

鳥の名前がつく場所で バードウォッチングをやってみた!

酒田市北俣「鷹尾山」

バードウォッチングをする際、どこで見るかということも一つの大きな問題です。そこで今回は有名無名にかかわらず、鳥の名前がついた土地でバードウォッチングをしてみたらどうなるのか検証してみました。第1回目は酒田市北俣にある「鷹尾山」です。

参考文献：平田町史

鷹尾山

鷹尾山とは、出羽山地の西にある標高352mの山で、京都の古寺の高雄山寺にちなんで名前がつけられており、猛禽類のタカとは関係がないようです。かつては萱^{かや}や秣^{まくさ}の採草地として利用されていましたが、現在の山頂周辺はゴルフ場となっています。鷹尾山周辺はスギ人工林が多く標高150~300mのなだらかな丘陵地が連続しています。一方で、堤や湿地も数多く残されており、遺伝的に分化した絶滅に瀕する地域固有の種・亜種・個体群が生息する重要湿地（環境省）が点在しています。



鷹尾山よりの眺め

※ゴルフ場の方にお断りして観察させていただきました。

10月初旬

天候：北東の風やや強く、曇り

気温：15℃

鷹尾山で観察開始するも、風が強く野鳥の出現が期待できず場所を移動する。

鷹尾山ふもとの水田周辺で観察



カケス



準絶滅危惧種のノジコ



見られた鳥：キジバト、ツミ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ホオジロ、ヒヨドリ

クマタカ発見!

鷹尾山を水源とする沢沿いの林道を進むと、上空にクマタカが姿を現しました。

沢沿いの谷津田は上流部に進むほど耕作放棄地が多く、藪となり一部はすでに植栽されたスギが大きく育っていました。

中山間地域は全国的に人々の暮らしの衰退によって里地里山の景観そのものが大きく変化していますが、訪れた場所も例外ではありません。一方で、沢の下流部で

は稲刈りを終えた水田に天日干しのための稲の杭掛けが見られ、今でも原風景が残されていました。

クマタカが下流部の人家の裏山にも姿を現すようになったのは、上流部での土地利用が変化によって谷津田が樹林化し、結果としてクマタカの好適な生息環境の拡大や創出が理由かもしれません。

鷹尾山の名前の由来はタカとは関係がありませんでしたが、現在は希少な猛禽類が生息する山でした。



見られた鳥：クマタカ、トビ、ノスリ、ノジコ、ホオジロ、ウグイス、カケス、ダイサギ、ノビタキ、アトリ、マヒワ、ヒヨドリ、キジバト

庄内の動物情報コーナー

今年も台風がいくつか列島を直撃しました。甚大な被害にあわれた地域の皆様にお見舞い申し上げます。庄内では9月の雨の量が少なく、池や川の水位もだいぶ低くなっていました。各地の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2019/7/26「コフキトンボ♀」鶴岡市
普段生活していてもなかなかトンボの種類には気が付かないものですね。こんな変わった模様のトンボももしかすると近くにいるかも？
撮影：たちん様



2019/8/12「ヤマドリ幼鳥」鶴岡市
ゆ〜っくりと牛歩作戦のヤマドリもいるんですが、この幼鳥はすばしっこく動き回っていたそうです。
撮影：田澤様



2019/8/24「ツキノクマ」酒田市
今シーズンも各地で目撃情報が相次いだクマ。酒田市の山奥でもミズキの実を食べるクマが目撃されました。フィールドでの活動には十分注意してください。
撮影：秋葉様



2019/9/18「アオゲラ」遊佐町
緑色の美しいキツツキ。「カッ！カカカカカッ！」という音が森の中に響き渡ります。激しい打ち付けですが、脳震盪は起こさないそうです。不思議ですね～。
撮影：渡会様



2019/9月「マミジロ」酒田市
北海道や本州の山地で繁殖するので、なかなか出会えない鳥ですが、酒田市の飛鳥では渡りの際に観察することができます。それにしても眉毛の白さよ！
撮影：とし様

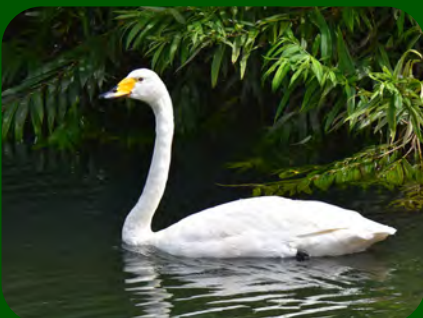


2019/9/26「オコジョ」酒田市
鳥海山の標高1500m付近で観察されたオコジョ。岩場の周りをちょこまかと走り回り、やっと撮影できた一枚だとか。
撮影：横山博様

全国の動物情報コーナー



2019/6月「キビタキ」新潟県
きれいな声で鳴く小鳥。体の色が青空に映えますね。
撮影：波多様



2019/8月「オオハクチョウ」秋田県大館市
夏にみるハクチョウもなかなか乙なものです。昨シーズン北へ帰らなかった個体。これからやってくる仲間たちに「おい！日本もなかなか良かったぞ！」とかいうんでしょうか？
撮影：山島様



2019/9/17「ムツアカネ」宮城県
局所にしか生息していない希少なトンボです。アカネとは言うものの実態は黒い赤とんぼ。そこに直れい！紛らわしい和名に説教しちゃう！
撮影：たちん様

イベント開催報告

○出張展示「まるごと体験！秋田のジオパーク」

8月8日(木)秋田市拠点施設ALVEにて秋田県内のジオパークが一堂に会するイベント「まるごと体験！秋田のジオパーク」に出張展示しました。秋田県は、県内に4か所のジオパークがある先進県です。鳥海イヌワシみらい館のある鳥海山も鳥海山・飛島ジオパークになっていて、秋田山形にまたがって認定されています。当館ブースでは、おみくじとはてなボックス、猛禽類パズルが人気でした。

キャラクターは当館のワッシーくんに加え、ゆざわの「しずこまち」と宮城県栗駒から「ねじりほんにょ」が出演しました。

6月に開催した大森山動物園のイベントにも参加してくれた家族も来てくれて、秋田県民のジオパークへの関心の高さがうかがえました。イベントを企画運営したジオパーク関係者の皆さん、来場してくれた皆さんありがとうございました。



○観察会「イヌワシと猛禽類の秋の渡りを見よう！」

9月7日(土)「イヌワシと猛禽類の秋の渡りを見よう！」と題し、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会との共催で開催しました。講師は猛禽類保護ネットワークの伊藤智樹さん、認定ジオガイドの五十嵐和一さんです。

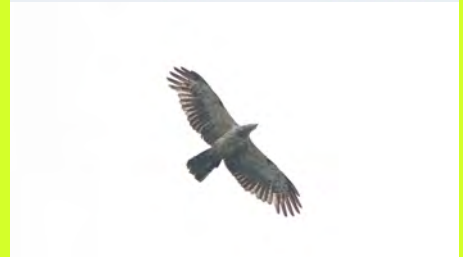
五十嵐さんの軽妙なトークで、ジオパークの魅力を存分に味わっていただきました。時事ネタを盛り込んだ話や、地域あるあるなどのお話に参加者全員引き込まれていました。途中訪れた展望台から奈曾溪谷の観察をすることで鳥海山の成り立ちの理解につながったのではないかと思います。

鳥類の出現は、まだ9月1週目ということもあって渡りはまばらではありましたが、間をあけてハチクマたちがパラパラと渡っていくところを観察することができました。現地はほぼ無風状態だったので、この日は高度を上げずにやや下の方を通過していく個体が多かったです。

鳥海山の噴火や水の浸食などによって作られた地形や、厳しい自然環境を利用して、貴重な猛禽類たちが暮らしているということを合わせて理解していただくことができたのかなと思います。参加してくれた皆さん、講師の伊藤さん、五十嵐さん、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会の皆さんありがとうございました！

この日見られた鳥

ハチクマ14羽、ノスリ6羽、トビ3羽、ハヤブサ2羽、ハイタカ2羽、ツバメ、アマツバメ、イワツバメ、ウグイス、ビンズイ、キジバト、ヒヨドリ、イヌワシ 計13種



イヌワシ(上)と通過したハチクマ(下)



○「夏休み体験プログラム」

毎年恒例となった「夏休み体験プログラム」。エコバッグ作り・蜜ろうそく作り・ドリームキャッチャー作りのレギュラープログラムに加え、今年は1週目にアントラースプーン・フォークづくりを開催しました。鹿の角を柄に加工してスプーンとフォークにします。ワイルドな仕上がりに参加者も嬉しそうでした。各地で報告される獣害についても学んでいただきました。

また、これまで提供してきたお鷹ぼっぼの絵付けですが、材料となる木の不作から、今年はキーホルダーとして提供しました。こちらもお鷹ぼっぼとはまた違うかわいらしさで大人気でした。参加してくれた皆さん、お手伝いいただいた皆さんありがとうございました。また来年楽しいプログラムで皆さんをお待ちしております。



イベント情報コーナー

「ジャパンバードフェスティバル」

日本一の野鳥の祭典「ジャパンバードフェスティバル（JBF）」に出展します！

当日は船上バードウォッチングや、ステージイベント、グッズの販売など盛りだくさんです。観る、知る、触れる、鳥を楽しむ2日間。

期 日 令和元年11月2日（土）～3日（日）

場 所 千葉県我孫子市手賀沼公園

展示会場 オオバン広場

※JR常磐線「我孫子駅」よりJBF巡回バスがあります。

主 催 ジャパンバードフェスティバル実行委員会

TEL 04 (7185) 1484

当日専用TEL 070-3133-9069 070-3133-6106



観察会「ハクチョウを数えて親指を鍛えよう！」

期 日 令和元年11月16日（土）

時 間 6:30～8:45

会 場 最上川河口スワンパーク

参加費 一人300円（保険・資料代）

募集定員 先着10名

持ち物 双眼鏡（貸出可）

募集期間 11月1日（金）～11月14日（木）

主 催 猛禽類保護センター活用協議会

協 力 ワイルドライフリサーチ

上記イベントに関するお申込み・お問合せ
鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）
TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
E-mail:moukin@raptor-c.com



最上川河口はハクチョウの飛来地として有名です。

実際にカウンターを使ってハクチョウの数を数えてみましょう！



蜂蜜の森から

第11回「農薬被害」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第11回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



巣盤のミツバチ



リンゴの花とミツバチ

あいかわらず、全国の里地で飼育する養蜂家たちが農薬被害で苦しんでいます。

以前の殺虫剤は虫にかけて殺すしくみだったので、散布とともにミツバチが大量に死んだのでわかりやすかったのです。しかし、現在の農薬の7割を占めているといわれるネオニコチノイド系の農薬は違います。そのような被害ももちろんありますが、浸透性・残効性が強くなったため、その農産物に花が咲けば、蜜や花粉にも微量の農薬が出てしまいます。たとえ成虫が死なない微量であっても、小さな体の次世代の幼虫たちに影響が出て次第にハチたちが減ってしまうのです。

実際近頃も、愛媛県のミカンのハチミツから国が決める残留基準値越えの農薬が検出され回収する騒ぎが起きました。人が食べてはいけない濃度の農薬がハチミツに入っていたのです。ハチがどうなったかが気になります。

稲に花が咲く前に行われる田んぼの空中散布も被

害は大きいです。稲は蜜を出しません花粉は大切な幼虫のエサなのです。

また、この農薬は神経毒のためミツバチの脳に影響し、帰ってこれなくなるともいわれています。

ハチだけでなく、私の自宅の周りでは、カブトムシやクワガタムシ、アゲハチョウ、カマキリなど、昔人気だった昆虫たちをほとんど見かけなくなりました。私の大好きなイナゴもいません。スズメも激減しました。影響は広がっているのではないのでしょうか。

怖いのは、この農薬は私たちの脳にも作用していると危惧されていることです。人の未来をミツバチや小さな生き物たちが見せてくれているように思えてなりません。



安藤竜二 (あんど う りゅうじ)

1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソク製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』（朝日町エコミュージアム研究会発行）



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

ラグビー日本快進撃です。そういえばブンクリップラグビーボールに似ている、転がすと予想外の動きで楽しいです。(本)

希少種保護増殖等専門員

ついに有志によって秋田猛禽類調査グループ「ARSG」が設立されました。今後の活躍を祈念してとりあえず乾杯です。(長)

事務局

今年初めて通勤路で子熊を数回見ました。今年はブナの実が大凶作とか。加害者(クマ)にならずに冬眠してほしいです(村)

鳥海南麓自然保護官

10月に入ってハクチョウが見られるようになりました。最上川河口が鳥獣保護区に指定されているのをご存知でしょうか？スワンパークでは早朝に多くのハクチョウが見られるのでお勧めです。(澤)

編集後記 & 施設情報

鳥海イヌワシみらい館

10月～12月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・12月より毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

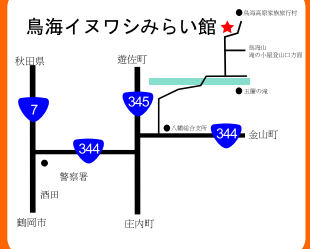
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.32 秋号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)